

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の主体的な教育活動の実践を通して、次代をリードし地域社会を支える人材を育成し、地域に根ざし、地域とともに歩む学校をつくる。

《育む四つ葉のクローバー（4つのチカラ）》

- (1) 【確かな学力】 基本的な学習習慣を身につけ、主体的な学びを通して社会につながる学力を養い、希望の進路を実現する力
- (2) 【コミュニケーション力】 豊かな人権感覚を持って違いを豊かさに捉える感性を育み、人とつながり、ともに高めあう仲間をつくる力
- (3) 【課題解決力】 「答えのない問い」に真摯に向き合い、思考力・判断力・実践力を養い、未来を創造する力
- (4) 【地域貢献力】 地域との連携や交流を通して、地域とつながり、地域の「人づくり・町づくり」に貢献する力

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 【授業力向上】 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざし、不断の授業改善に取り組む。
 - ア 授業力向上委員会を中心に、公開授業及び研究協議、相互授業見学、授業アンケートを活用した授業改善に組織的に取り組む。
 - ※「授業アンケート」による5つの授業評価軸平均（平成29年度3.11）を毎年引き上げ、2020年度には3.21にする。
 - イ 「主体的・対話的で深い学び」の授業やICT機器等を用いた授業を展開することにより、教員の授業力及び生徒の授業満足度の向上をはかる。特に「why(なぜ学ぶか)」「so what(だから何なのか)」等を考えることが学びの中心になるような授業づくりを重点的に進める。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」に対する満足度（平成29年度66%）を2020年度には76%にする。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「ICT機器が授業等で活用されている」に対する満足度（平成29年度76%）を2020年度には80%にする。
- (2) 【進路実現の支援】 基礎学力の定着を組織的に図り、生徒の希望する進路の幅を広げ、その実現を支援する。
 - ア 教科・学年の協働チームを組織し、教育産業の学習支援プログラムを活用しながら生徒個別の学習課題の克服と学習習慣の確立を図る。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「家庭での学習時間を確保している」に対する肯定率（平成29年度47%）を2020年度には52%にする。
 - イ 放課後や長期休業中の組織的な補習・講習体制の確立に取り組む。また、校内で自習できるスペースの整備・拡充を図る。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「補習・講習を十分行っている」に対する満足度（平成29年度71%）を2020年度には75%にする。
 - ウ 3年間を見通した進路プログラムを設定し、きめ細かいキャリア教育を実施することで、進路希望実現を図る。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における進路指導満足度（平成29年度75%）を2020年度には82%にする。
- (3) 【専門コース制の充実】 2つの専門コースにおける3年間を通じた学習プログラムを構築・遂行し、希望の進路実現を図る。
 - ※生徒向け学校教育自己診断におけるコース制満足度（平成29年度70%）を2020年度には76%にする。
 - ※平成30年度入学生の専門コース選択者について、子ども保育専門コース20名、人文探究専門コース60名の確保を目標とする。

2 コミュニケーション力の育成

- (1) 【生徒指導の充実】 基本的生活習慣の改善・定着を図るとともに、マナーや規範意識を醸成するなど社会性の向上を図る。
 - ア 挨拶、身だしなみの改善・定着、SNS使用上のモラル向上、遅刻指導の強化に向け、全教職員での取組みを図る。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「基本的習慣の確立に力を入れている」に対する肯定率（平成29年度63%）を2020年度には68%にする。
 - ※年間遅刻者数を3年間で平成29年度の2割減（1600未満）にする。
- (2) 【ともに高めあう集団育成】 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の主体的な行動を促し、生徒の自主性や社会性を醸成する。
 - ア 部活動や各種行事を通じて、周囲との協調性を養い、課題に向かってともに越える力を醸成する。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「部活動に積極的に取り組んでいる」に対する肯定率（平成29年度55%）を2020年度には65%にする。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度（平成29年度71%）を2020年度には78%にする。
- (3) 【人権尊重の教育の充実】 一人ひとりを大切に、だれもが安心して安全に学べる学校をつくる。
 - ア 心の教育を充実させ、生命と人権を尊重し、多様性を尊重し他者を思いやる豊かな人間性を育む。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「学校の人権意識育成姿勢」に対する肯定率（平成29年度68%）を2020年度には74%にする。

3 課題解決力の育成

- (1) 【読書活動の充実】 活字を通して様々な課題を知り、論理的思考力・表現力を養う。
 - ア 図書室を整備し、利用状況の向上を図る。
 - ※1年間の図書貸し出し冊数を2020年度には平成29年度の10%増にする。
- (2) 【部活動の充実】 部活動を通して自己の課題を克服し、挑戦し続ける力を育成する。共通の目標に向かい努力し続けるチームをつくる力を醸成する。

4 地域貢献力の育成

- (1) 地域と連携し、地域の社会資源を活用した教育活動を展開する。
 - ア こども保育専門コース生徒による保育所、幼稚園への出前授業や交流。
 - イ 人文探究専門コース、一般系生徒による小・中学生への出前授業等の実施。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「授業や部活動などで地域の人々と交流する」に対する満足度（平成29年度50%）を2020年度には60%にする。
- (2) 学校教育活動全体を通して組織的・計画的に学校保健活動を展開する中で、生徒の健康教育の推進や、防災意識の啓発、清掃活動への徹底を促す。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「命を大切にすることを学ぶ」に対する肯定率（平成29年度71%）を2020年度には78%にする。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における「清掃が行き届いている」に対する肯定率（平成29年度54%）を2020年度には60%にする。
- (3) 開かれた学校づくりの推進
 - ア 学校運営への一層の協力・理解を求めため、保護者に対する情報提供の工夫を凝らす。
 - ※保護者向け学校教育自己診断における「教育情報の提供」に対する満足度（平成29年度83%）を2020年度には86%にする。
 - ※保護者向け学校教育自己診断における「本校HPをよく見る」に対する肯定率（平成29年度41%）を2020年度には58%にする。
 - イ 地域に信頼され誇りとされる学校をめざし、生徒と地域との交流を積極的に進め、地域とのつながりを強める。
 - ウ 中高連絡会の充実など、生徒が通う地域の中学校との連携を深める。

5 学校経営・運営体制の強化

- (1) 普通科専門コース設置校の完全実施に伴い、学校運営の機動性を高めるため組織力の強化を図る。
 - ア 学校運営の機動性を高めるため、運営委員会や将来構想委員会の活性化を図り、多様な計画を実施する体制を確立し実践する。
 - イ 新任・経験年数の少ない教員、ミドルリーダーの育成を図る。
 - ウ 1階大職員室で職員朝礼を週2日実施できる環境を整備する。職員間の迅速かつ正確な情報共有に努め、分掌・学年・教科相互の連携を強め、校務の多重化の解消に努め、「働き方改革」を推進する。
- (2) 支援を必要とする生徒への支援体制を充実し、家庭や地域との連携を深め、全ての生徒に対し、安心して安全な高校生活が保障できるように努める。
 - ア SC及びSWを配置し、校内教育相談体制を充実させるとともに、外部公的機関との連携を深め、迅速かつ的確な支援を行い中退防止等に努める。
 - ※保護者向け学校教育自己診断における「先生はさまざまな問題を見逃さずに対応」に対する肯定率（平成29年度76%）を2020年度には78%にする。
 - イ 個別の支援計画の策定・実施を分掌・学年・教科の協働により組織的に遂行する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学校満足度】</p> <p>・生徒の「本校に入学してよかった」は6年連続80%超、保護者は4年連続90%超で、いずれも前年度より上昇した。また、「学校に行くのが楽しい」も高い満足度が得られている。一方、「他校にない特色」は3年連続で下がっており、普通科総合選択制が特色ある学校として評価されていたことを示唆している。これを受けて、総合選択制に代わる目玉になる特色を出そうとするのではなく、専門コース制の充実を図りながら、生徒一人ひとりの「4つのチカラ」の育成と進路を保障する教育をより丁寧に進めることが肝要で、その丁寧さが「他校にない特色」として評価されるよう努めたい。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>・生徒の「コースや授業は役立つ」は71.8%(前年度比+1.5)と上昇、特に2年次は78.2%(+9.4)と大幅に上昇し、また、1年次から2年次になって2.6ポイント上昇した。逆に3年次は59.9%(-6.4)、経年変化を見ても74.5%→68.8%→59.9%と下降した。この違いについて学年、教科、分掌での組織的な検証が必要である。なお、同じ設問に対する保護者の肯定的回答は例年通り高い値(82.0%)であった。</p> <p>・「進路に応じた選択科目がある」は84.5%(+2.2)と上昇、特に1年次87.6%、2年次87.5%ととても高い。また、専門コースへ進学を希望する生徒は前年度の1.58倍(84名)に急増した。これらのことからコース制への改編が順調に進んでいると言える。</p> <p>・「ICT機器の活用」の3年間の経年変化をみると、生徒は63.5%→76.4%→82.0%と飛躍的に上昇し、昨年度全HR教室にICT機器を設置した成果が顕著に表れている。</p> <p>・生徒の「教え方に工夫し授業はわかりやすい」は70.6%(+4.4)と上昇した。特に1年次は78.1%と過去7年間全学年を通して突出している。教員相互の授業力向上に反映できるよう数値の根拠となる良い点を全体で共有したい。</p> <p>・生徒の「自分でまとめる・発表する」は45.5%(-1.6)と最近4年間は50%手前で停滞している。新学習指導要領の趣旨を踏まえたカリキュラムを構築し、「思考力・判断力・表現力」を育成する教育内容を充実させる必要がある。</p> <p>・生徒の「家庭学習時間の確保」は毎年2年次での落ち込みが課題であったが、49.5%→48.0%(+8.7)と大きく落ち込むことなく半数近い生徒に家庭学習習慣の定着が認められる。3年次は過去2年間50%を超えていたが今年度は43.1%に留まった。また、1年次は今年度教育産業の家庭学習プログラムを全生徒に導入したが、40.9%(-8.6)と効果は見られない。家庭学習習慣の定着への組織的な取り組みが必要である。</p> <p>・生徒の「補習や講習を十分行っている」は76.4%(+5.8)と大幅に上昇し、過去7年の最高値であった。とりわけ3年次は84.7%(+16.1)と圧倒的な肯定的回答を得ており、専門コース制1期生の進路実現のために教員が熱心に取り組んだことが現れている。</p> <p>・今年度の取組の成果と課題を分析・検証し、また、目標を明確にし、効果的な学習習慣の定着及び学力向上を実現する具体的方策の立案・実践を組織的に進めたい。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・生徒の「先生の指導は適切」は72.1%(前年度比+5.5)とすべての学年で肯定的回答が増加した。保護者の「指導方針に理解」は75.4%(+2.0)、「指導に協力」は77%を維持し、いずれも一定の肯定的回答を得られている。遅刻指導の徹底により遅刻数は6年連続で減少、身だしなみ指導の徹底にも努め、「厳しくなった」と感じる生徒の声も聞こえるが、否定的回答が多くなったとは認められず、今後も緩めることなく、生徒の内面に切り込みつつ規範意識の啓発に努める。</p> <p>・生徒の「先生は生徒の意見をよく聞く」は66.7%(+2.4)、「相談できる先生がいる」は60.1%(+0.6)と上昇した。一方、保護者の「保護者の相談に適切に応じる」は76.0%(-7.3)、「生徒の相談に親身」も68.9%(-7.0)と減少した。今年度S Wを配置する等の教育実践が生徒には伝わっていても保護者には届いていない傾向が伺える。</p> <p>・生徒の「進路実現に向けて適切な指導」は75.9%(+0.5)、「奨学金について十分に説明」68.6%(+4.3)と上昇した。しかし、保護者については上記と同じ傾向が見られる。原因を究明し、必要な対策を講じる必要がある。</p> <p>・生徒の「人権教育の推進」は72.1%(+3.9)、「命の大切さや規範意識を学ぶ」は77.9%(+7.1)と大幅に上昇する一方で、「クラスやクラブは気軽に話せる集団」は69.1%(+0.4)、保護者は67.5%(-4.2)と良い結果が得られていない。このことから人権教育の取り組みの充実を図りながら、集団育成の観点でクラス等における仲間づくりに重点をおいた学びの実践を進めることが次年度も引き続き課題であると捉える。</p> <p>・生徒の「部活動に積極的に取り組んでいる」は52.2%(-2.3)、「地域との交流」は39.7%(-9.9)といずれも減少しているが、実質的には双方とも(とりわけ「地域との交流」は格段に)活発になっている。活動に関わる生徒数が減っていることもないので、原因究明により丁寧に客観性のある分析が必要である。</p> <p>【学校運営等】</p> <p>・SSWの配置により教員の「教育相談体制の整備」は74.5%(+8.4)と大幅に上昇した。</p> <p>・「ホームページをよく見る」は生徒35.7%(+9.6)、保護者47.0%(+5.7)、教職員68.6%(+9.3)と上昇している。今後もきめ細やかな情報提供がなされるよう取り組む。</p> <p>・教職員の「校長の運営方針の明示」は92.2%(+0.7)と高いが、「校長による学校経営の推進」は76.5%(-4.9)と減少した。また、教員相互の協働や組織間の連携がうまくいかない場合が多く生じているのが現状である。これは今年度教員数が約1割削減された中、校務全般の整理が追い付いていない事、教員の居場所が分散して日常顔を合わせる教員が限定的である事が要因の一つになっていると分析する。昨年度末に大職員室の整備を行ったが教室から遠くなることもあり常駐する教員は増えていない。しかし、「チームみどり清朋」の組織づくりに何らかの起爆剤が必要である。</p>	<p>【第1回(6/15)】</p> <p>○学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科専門コース制に改編して3年めを迎え、今年度初めての卒業生を出すとのこと。結果はまだ見えないが模試を受ける生徒が倍増し、自習室で放課後学習する生徒が増えている事などから、生徒の学びに向かうモチベーションが上がっているのはとても良いことである。 ・新テスト導入に向けて入試を変更する大学がある。例えば英語の外部試験を点数化する大学が増えているので注意するのがよい。 <p>○生徒指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス停から歩いてきたが、下校する生徒の雰囲気が変わってきた。交差点では自分より車を優先させていたし、マナーがとても良くなっているように感じる。 ・数年前からスカート丈の短い生徒はいなくなった。 ・口紅を塗っている女子に対する指導はどうしているのか。目立つ生徒がいる。 ・開校当初の印象と随分変わって生徒の雰囲気はよくなっている。 <p>○学校運営等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携を推進してもらっていることは大変うれしい。北山本小学校に実施したプログラムを池島小学校の児童にもしてほしい。 ・教育は継続が大切で全教員で取り組む結束力が求められる。みどり清朋高校が良くなっているのは、それができているからではないか。 <p>【第2回(10/1)】</p> <p>○授業見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は授業に集中していた。 ・籤で生徒を指名したり、iPadを用いたり、電子黒板を使ったり、いろいろな工夫がみられた。 ・グループで活動していたが、全員一緒に楽しそうに活動していたことが凄い。 ・生徒たちが積極的に話し合い、班ごとにオリジナルの実験を考えて実践し、検証発表という主体的な取り組みは素晴らしい。中学校ではここまでできない。 ・3年めだが年々良くなってきている。きっちりと分かりやすい言葉で説明され、落ち着いた授業展開だった。 <p>○授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目ごとに経年変化を見るのは良い。自由記述も丁寧に返されている。 <p>○学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習ノートを保護者が点検してから教員が点検することが、学習習慣定着に効果があるという報告がある。 ・本校でも週末課題を行っているが、そこからどう広げるかが課題になっている。 ・グループワーク時に全員が参加していることが大切。 ・先生が席を外していても自習できているのは羨ましい。 <p>【第3回(2/4)】</p> <p>○学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校では苦手であった科目が高校に入って変わったという意見が結構あるというのはとても素晴らしいことだと思う。 ・中学校も観点別評価をしている。授業改革への全校的な取り組みとして、授業観察週間を設け、シートを作って話し合いをするようにしている。授業時数の多い中で年間100時間をめざして実施し、シートをファイルにして貯めて、誰でも見るようにしている。高校でも参考にしているか。 ・表現力は中学校でも課題。表現力の育成は難しく、児童生徒へ意識付けをしていかなければならない。 ・年々レベルが上がってきていることを実感している。この調子で今後も頑張っていたきたい。 <p>○生徒指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大学に来て伸びる子は入試の成績ではない」と大学の教員が言っている。また「高校のときにいろいろな失敗をしたり、怒られたりしながら、高校の授業をきちんと受けたらよかったとか、遅刻して先生によく指導されたとか、高校での先生方の取組を理解した生徒が伸びる」とも言っている。みどり清朋の先生方も頑張っておられるので、その思いを生徒たちに伝えていただきたい。 ・先生方の努力でよくなってきているのがわかる。私の大学の教員には、みどり清朋高校の生徒の評判が良い。入って伸びる生徒がたくさんいる。生徒の将来の幸せのためにどうしたらいいのかという観点から、先生方が意思統一をされ、取り組んでいかれたらと思う。 <p>○学校運営等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校でも定数減で同じ課題がある。小中一貫になり分掌も小学校と一緒にしたり、分掌を淘汰して再構築する作業を行っている。その過程で、小学校と中学校とが話し合いを持つことで連携でき、教員の意識も高まってきている。 ・職員会議等で意見を交わすことが共通認識につながっていたかと思う。学校全体を知って自分の仕事をしていたように思う。会議での意見交換が大切。 ・部活動に関して府から休ませるような指示が出ているのか。その影響はないか。

府立みどり清朋高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 授業力向上 ア 授業改善に組織的に取り組む イ AL、ICT 機器を活用した授業づくり (2) 進路実現の支援 ア 学習習慣の確立 イ 組織的な補習講習体制の確立 ウ 進路プログラムを設定しキャリア教育実施 (3) 専門コース制の充実	(1) ア・研究授業推進月間、相互授業見学の実践 ・ 授業アンケート結果に基づく校内研修会の実施 ・ 「観点別評価」等に係る実践の検証・分析 ・ 実習・体験学習の推進（校外も含む） イ・「考える授業」、ICT 機器等を取り入れた授業展開の開発・実践及び発表や説明の機会を増やす授業展開の実践 (2) ア・1 年次教科別勉強法の徹底指導 ・ 教育産業を効果的に活用する学習支援体制の確立 ・ 英語検定、漢字検定等の資格取得促進 ・ 授業の予習復習を習慣づける家庭学習の充実 イ・校内講習体制の組織化（進路指導部主導の講習） ・ 放課後、長期休業中の講習等の充実 ウ・3 年間を見通した進路プログラムの実施 ・ 「進路カルテ」の作成による生徒一人ひとりのキャリアデザイン支援 ・ 適時な進路情報の提供、目標設定の支援 ・ 大学見学会の実施等、外部説明会への参加、卒業生との懇談会による進路意識の向上 ・ 保護者向け進路説明会による肌理細やかな情報の提供 (3) ・ 人文探究コースにおける新しい大学入試制度に対応した学力を保障する学習計画の構築及び実践	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断における「入学満足度」を 88%（平成 29 年度 81%） ・ 授業アンケートの 5 つの授業評価軸平均を 3.17（平成 29 年度 3.11） ・ 生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」72%（H29 年度 66%） イ・生徒向け学校教育自己診断における「ICT 機器の活用」満足度を 78%（同 76%） (2) ア・生徒向け学校教育自己診断における「家庭学習時間の確保」肯定率 50%（平成 29 年度 47%） ・ 英語検定、漢字検定受検者数の平成 29 年度比 10%増 イ・生徒向け学校教育自己診断における「補習講習は十分行っている」満足度 73%（平成 29 年度 71%） ・ 「行きたい大学」への合格者数 60%以上 ウ・生徒向け学校教育自己診断における「進路指導満足度」を 78%（平成 29 年度 76%） ・ 保護者向け学校教育自己診断における進路情報提供満足度を 78%（平成 29 年度 76%） (3) ・ 2019 年度センター試験出願数 50（平成 29 年度 41）	(1) ア・「授業力向上 P T」を組織。相互授業見学期間を設定し、研究授業を実施。見学した授業を HP で公開する等、互いの授業を知る機会を作った。「観点別評価」の検証・分析を年度末に行い、新学習指導要領に則り新大学入試制度に順応した授業改革を進めている。 「入学満足度」80.1%→81.4%（△） ・ 授業アンケート 5 つの授業評価軸平均 3.11→3.19（◎） ・ 「授業はわかりやすい」66.2%→70.6%（△） イ・「ICT 機器の活用」76.4%→82.0%（◎） (2) ア・1 年次対象に教育産業の自学自習プログラムを導入し支援した。学ぶ意欲の向上が認められたが学習習慣が定着する生徒数の増加は見られなかった。 「家庭学習時間の確保」46.8%→44.3%（△） 「検定受検者数」267 名→250 名（△） イ・1 年次から年間を通して組織的な講習・補講・学習会を実施することができた。本校初の国立大学受験。 「補習講習は十分に行っている」70.6%→76.4%（◎） 「行きたい大学」への合格者数 ____（○） ウ・一人ひとりキャリア支援を丁寧に行った。「進路指導満足度」生徒 75.4%→75.9% 保護者 82.3%→74.4% 「進路情報提供満足度」76.4%→74.4%（△） (3) センター出願者 41 名→47 名（△）
2 コミュニケーション力の育成	(1) 生徒指導の充実 (2) ともに高め合う集団育成 (3) 人権尊重の教育に充実	(1) ・全教職員が生徒指導課題を共有し、生徒の規範意識の向上にむけた組織的な実践 ・ 身だしなみや自転車マナーの講習会の開催 ・ 全教職員による授業規律、遅刻指導の徹底 (2) ・生徒会行事における生徒の主体的な活動の保障・拡充 ・ グループワーク等を導入した表現力、発信力の育成 (3) 一人ひとりの違いを認め合い、安心して学び高め合うクラスづくりを意識した学級経営の実践 ・ 豊かな人権感覚を醸成する「総合的学習の時間」のプログラム作成と実践	(1) ・生徒向け学校教育自己診断における「基本的習慣の確立」68%（平成 29 年度 63%） ・ 遅刻者数前年比 7%減（平成 29 年度 1873） (2) ・生徒向け学校教育自己診断における「人権教育の充実」70%（平成 29 年度 68%） ・ 生徒向け学校教育自己診断における「クラス活動が活発」69%（平成 29 年度 67%） (3) ・生徒向け学校教育自己診断における「一人ひとりが尊重される」72%（平成 29 年度 69%）	(1) 身だしなみ指導において全学年共通した指導ができるようになった。また、予鈴を 5 分早めて、校歌のメロディチャイムを導入し、意識向上の啓発を全教員で取り組んだが、遅刻数を大幅に減らすことはできなかった。 「遅刻者数前年度比（1 月集計）」1873→1761（6%減）（△） 「基本的生活習慣の確立」62.8%→65.0%（△） (2) 情報モラル向上や豊かな人権感覚の醸成に努め、主体的活動を支援した。「人権教育の充実」68.2%→72.1%（◎） 「クラス活動が活発」67.2%→63.5%（△） (3) 違いを認め高めあう集団育成を重点的に行った。 「一人ひとりが尊重される」68.7%→69.1%（△）、
3 課題解決力の育成	(1) 読書活動の充実 (2) 部活動の充実	(1) 図書室の整備の推進及び読書活動の組織的啓発 ・ 全生徒が各学期に 1 冊以上の読書 (2) ・入学当初の体験入部等の拡充及び定着の推進 ・ クラブ間交流の企画運営 ・ 外部指導者の活用 ・ 学校説明会等での中学生の部活動見学実施 ・ ホームページによる活動報告等の随時発信	(1) ・年間図書貸出し数を生徒数×4（3300 冊） ・ 図書を活用した地域との交流を年 1 回実施 (2) ・生徒向け学校教育自己診断における「部活動に積極的」肯定率 60%（平成 29 年度 55%） ・ 1 年生部活動加入率 70%（平成 29 年度 66%） ・ ホームページアクセス数を前年度 10%増	(1) 全生徒が学期に 1 冊読書する取り組みは進まなかった。 「図書貸出数」1717 冊（12 月末）（△） (2) 部活動紹介の工夫や運動部スポーツ大会の実施等、また日頃の活動の様子を HP で頻繁に紹介し活性化を図った。 1 年次加入率は上昇したものの目標値には達しなかった。 「部活動に積極的」54.5%→52.2%（△） 「11 期生部活動加入率」66%→60.2%（△） 「ホームページアクセス数」13%増（◎）
4 地域貢献力の育成	(1) 地域と連携した教育活動の展開 (2) 防災意識の啓発 (3) 開かれた学校づくりの推進 ア タイムリーな保護者への情報提供 イ 中学校等への広報活動	(1) ア・地域の学校や福祉施設などとの連携推進 ・ 小学校・中学校への出前授業、保育所等での生徒の実習体験、自治会事業への参加の推進 ・ 部活動での小・中学生との交流 ・ 治水緑地など学校周辺の美化活動の推進 (2) 実働防災訓練の実施とリアルな防災避難訓練の企画 (3) ア・ホームページの活用 ・ 保護者への授業見学会実施 ・ 保護者向け講演会開催と個人面談の充実 ・ 学校行事における P T A との一層の連携 イ・生徒が活躍する学校説明会を開催（年 4 回） ・ 地域に根ざした中高連携の内容充実 ・ 出張模擬授業の実施、中学生への授業公開	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断における「地域との交流」認知度を 54%（50%） ・ 「学校の美化環境」に対する肯定率 56%（平成 29 年度 54%） (2) ・教職員による実働防災訓練の実施 ・ 生徒向け学校教育自己診断における「命を大切にす心の醸成」に対する肯定率 74%（平成 29 年度 71%） (3) ・保護者向け学校教育自己診断における「教育情報の提供」を満足度 85%（平成 29 年度 83%） 「本校 HP をよく見る」を 50%（同 41%） ・ 学校説明会への参加中学生数を 1100 名（平成 29 年度 1000 名）	(1) ア・近隣の小中学校への生徒の理科実験出前授業や保育園児の授業参加等大きな成果があったが、認知度の数値には現れなかった。「地域との交流」49.6%→39.7%（△） 日常の清掃活動及び地域のクリーン活動を行った（1 月）。 「学校の美化環境」53.7%→59.5%（◎） (2) 本格的な教職員実働防災訓練を実施した。（○） 「命を大切にす心の醸成」70.8%→77.9%（◎） (3) ア・ホームページの更新を毎日行い、本校教育の「見える化」に努めた。保護者対象進路講演会を実施、面談の充実にも努めた。「教育情報の提供」75.0%→67.3%（△） 「本校 HP をよく見る」41.3%→47.0%（△） イ・中河内地域公立中学校への訪問を 2 回行った。 「学校説明会参加生徒数」912 名→900 名（1 月末）（△）
5 学校運営体制の強化	(1) 新しい学校づくりを進める 運営体制の強化	(1) 全教職員が一丸となって、教育目標達成に向けて協力し 支え合い実践する組織づくり ・ 経験年数の少ない教員が安心して職務に専念できる OJT の充実とミドルリーダーの育成 ・ 分掌、学年、教科、事務室が有機的に結びつき、より機能的合理的に職務を遂行できる職員集団の形成し、校務の多重化を解消することにより、「働き方改革」を推進し、時間外超過勤務を削減する。 ・ S S W 配置を新規導入し、支援体制を充実する。	(1) 生徒向け学校教育自己診断における「先生はお互いに協力し指導にあっている」を 60%（平成 29 年度 51%） ・ 教職員向け学校教育自己診断における「教員間で授業方法等について検討する機会」に対する肯定率 65%（平成 29 年度 63%） 「学年・分掌・委員会等の組織間の連携」肯定率 60%（平成 29 年度 50%） ・ 教員の時間外超過勤務時間の月平均値を前年度比 2 時間減	(1) 学年・分掌・教科の協働や連携がうまく動くように校務の分担や順序の整理が思うように進まなかった。教員数約 10%削減に伴う校務の整理・再分担が追い付かず、教員相互のコミュニケーション確保の時間が削減した。「しーむみどり清朋」をめざし有機的な組織づくりを進める。 「先生はお互いに協力」51.2%→55.7%（△） 「授業方法等について検討」62.7%→45.1%（△） 「組織間の連携」50.8%→35.3%（△） ・ 時間外超過勤務時間の月平均値 2 時間減（○）